

長尾菅原神社

発行所 枚方・交野地区保護司会
 ホームページ
www.hirakata-shakyo.net/hogoshikai/
 発行者 清水 和 明

新年のご挨拶

ご健勝に、新年をお迎え頂けたこととお慶び申し上げます。さて、新年早々から、重要な報告を致します。大阪保護観察所の所管行事で、例年10月開催の「大阪更生保護大会」ですが、本年は、急遽、枚方市総合文化芸術センターで開催する運びとなりました。皆様におかれましてはご多用とは存じますが、ご協力の程、宜しくお願いを申し上げます。

ところで昨秋は、石川県の七尾鹿島保護区保護司会と交流し、大変意義ある研修となりました。特に「社会を明るくする運動（以下、社明運動）」の啓発で、広報車を行く他、運動期間中には「社明運動ステッカー」を自動車に貼る等、一人ひとりに伝える努力に、心打たれました。

一方、2年前の災害で保護司全員が何らかの形で被災された中、「いつも通りに、出来ることから」と前向きに活動してきたとの体験談に感銘を受けました。



枚方・交野地区保護司会
会長 清水 和明

TOPICS

1面 新春のご挨拶

2面 第75回枚方・交野地区「社会を明るくする運動」

3～6面 作文コンテスト優秀作品特集

7面 保護司会の活動報告

8面 保護司の栄誉と動静

少し前の話になりますが、過去に滋賀県の高島保護区保護司会と交流した事を覚えておられる皆さまもおられると思います。今回も同様の感覚を抱きました。保護司同士で話し合い、想いを共有すると、自身の振り返りのみならず、本年も保護司会の各専門部任せにせず、全保護司が関係各所の皆様と共に心を合わせ、日々、歩んでいきたいと思います。

昨年8月の合同研修会で披露された「薬物乱用防止出前授業」は、想いを共有・形にした取り組みでした。「ダメーセツタイ」との強い訴えは効果的だと実感しました。担当した保護司の熱意・創意工夫で分かりやすい内容となり、私自身も感動を覚えました。

この他に保護司人材の開拓についてですが、本年も引き続き積極的に呼びかけて頂きたい。年齢も70歳頃から40歳前後の方々まで広げ、ご近所・友人・知人で、保護司の候補者になって頂けそうな方がおられたら、お声かけ下さい。なお、審査過程は従前と変わりません。

むすびに、本年も皆様のお力添え頂きまして「犯罪のない、明るい社会づくり」に努めて参ります。何卒よろしくお願ひ申し上げ、新年のご挨拶に代えさせて頂きます。



大阪保護観察所
所長 山田 浩司



ホームページへの
アクセスはこちらから



第75回『社会を明るくする運動』



法務省の提唱により、毎年7月を啓発強化月間と定め、犯罪や非行のない、安全で安心して暮らすことのできる社会の実現を目指して全国一斉に展開されている、通称「社明運動」も今回で75回目を迎えました。枚方・交野地区では7月1日に、枚方市総合文化芸術センターで式典を開催しました。

式典

関西外国語大学吹奏楽部

記念講演

共に生きるということ
～私がそばにいるから～

●講師／高部 知子氏

社明運動のスローガンでもある「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」について、高部氏は公認心理師・精神保健福祉士の立場で、薬物摂取や飲酒など身近なサイン、「生きづらさ」や精神医学・

心理学的見地のアプローチ、精神疾患・障害などを細やかに説明されました。

また、その大半は、10代の頃に現れること、何よりも大切なのは、ひとりで問題を抱えるのではなく誰かと繋がること、共に在る限りいつかきつと人を信じられる瞬間があること、そして「継続」も大切だと身近な事例で紹介され、参加者が大きくうなづく場面も多くありました。

のオープニング演奏に始まり、交野・枚方両市長をはじめ来賓各位の挨拶、その後、保護司会から地域関係団体へテント5張を贈呈しました。



枚方・交野地区 社会を明るくする運動
「大会に参加して...」
(参加者のアンケート回答より抜粋)

参加者の85%が60～80才代で、64%が「以前から社明を知っていた」と回答。広報紙やチラシを見てきた人は44%、友人・知人に誘われてきた人は13%でした。
(参加者の声・意見など)

私は80代の団地住まいで、毎日近所のゴミ拾いや花の手入れをしています。美しい環境づくりは、犯罪や非行の防止につながると思います。協力してくれる友人もいて、大分きれいになりました。



主な取組

1. 主要駅6か所での街頭啓発(7月18日)
 2. 標語パネルの掲示(通年)
 3. 作文コンテストの開催
 4. 標語入りクリアファイルの配布(中学3年生対象)
 5. 地域関係団体へテントを寄贈(保護司会独自)
- 再出発に挑んでいるご本人の話も聞いてみたい。感じていること、困っていることなど生の声を聞いて、協力をしたと思う。
- いかに犯罪をなくすかも大事だが、それ以上に再犯率を減少させる具体的な方策を考えることが大事だ。
- 街頭パレードが無くなって、一般市民向けの啓発効果が薄れている。
- 若い世代へのアピールが不足している。

第75回『社会を明るくする運動』チャリティゴルフ大会

去る5月15日(木)奈良県飛鳥カントリー倶楽部において、標記大会が開催され、枚方・交野地区保護司会から7名の参加を得ました。

チームAは京谷名誉会員、野嶋保護司、三島保護司、藤田保護司、チームBは木崎保護司、恵阪保護司、太田保護司の組み合わせでした。

成績発表！
特別表彰・エージシュート賞
(飛鳥カントリー倶楽部認定)

京谷 譲氏(84歳V78)
《エージシュートとは、年齢と同じか、少ないストロークでラウンドすること》

京谷名誉会員は昨年に続きエージシュートで表彰され素晴らしい成績を収められました。今後とも保護司会活動と併せ、枚方・交野地区保護司会のゴルフ同好会「枚保会」にも多数のご参加をお待ちいたしております。
(太田祐月)



道上
幸花

になりました。

そして私は友達や家族のすてきな所を探してみることにしました。例えば、家でお母さんが毎日ご飯を作ってくれること、それを当たり前のように思っていたけれど、よく考えてみるとすごくありがたいし、優しいなと思いました。また、友達の中にもすてきな人がたくさんいます。落ち込んでいるときに声をかけてくれたり、困っている人を助けたり、みんなそれぞれ持っている「すてき」の形が違うことに気がつきました。時々、意地悪に見えてしまう人も、よく観察すると誰かのために頑張っていたり、誰にも気づかれてなくても優しい行動をしている、「ああ、この人にもすてきがあるんだな」と思うようになりました。

けれど、「すてき」を見つけて伝えるのは勇気がいります。私も最初は上手く言葉が出てきませんでした。でも、一度伝えてみると、相手がすごくいい笑顔になってくれて、それが自分の心にもボツと光が灯るよううれしかったです。「ありがとう」「すごいね」「助かったよ」「優しいね。」そんな一言一言が誰かの心、そして自分の心まで明るくするんだと気づきました。

さらに、家族や友達以外にも、すてきな人たちがいることに気づきました。スーパ―でお年寄りに優しく声をかけている人や、道をきれいにし

ている地域の方々。ニュースで、自分の町をきれいにするために頑張っている人達のことを知り、「社会を明るくする」人は、きっと特別な人だけじゃなくて、身近にたくさんいるんだなと思いました。

でも、「人のすてきなところ」を見つけて伝えるのは、けっこう勇気がいります。「こんなこと言って大丈夫かな」と悩んでしまうときもありました。でも、一度「ありがとう」「すてきだね」など素直な言葉を口に出してから、伝えるたびに相手の笑顔や「うれしいな」という反応が返ってきて、どんどん怖さがなくなってきました。言い合ったことがきっかけで気まづくなるのではなく、心がつ

ながっていく感じすらしました。

よく考えてみると、毎日の中には見逃していた「すてき」がけっこうたくさんありました。

私は、もつと友達や家族のすてきを探したいし、自分の誰かの「すてき」になりたいと思うようになりました。

社会を明るくする運動は、ただみんなで仲良くするということだけでなく、人の良いところを見つけてちゃんと伝え合うことなんだと今では思います。それは時にむずかしいけれど、この積み重ねが、クラスや学校、家族、そして地域や社会全体までも明るく、大きくしていく力になるのだと私は思います。



小学校の部

●枚方・交野地区保護司会 優秀賞

明るい社会と未来のために私ができること

枚方市立津田南小学校5年

嶋中

愛花



社会を明るくする運動についての作文を書くことになって、自分の周りを見渡してみると、犯罪、非行をする人は、私の周りにはいませんでした。でも、ニュースでは、毎日のように悪いことをしている人、犯罪を犯してつかまっている人を目にします。

その人たちがどうして犯罪を犯すのかを私なりに考えてみると、困った時に助けられる人や、心が折れそうになった時に、支えてくれる人が

周りにいなかったり、心が満たされていない人が犯罪を犯してしまうのかなと思いました。私の周りには、私が困っていたら助けてくれたり、手を差し伸べてくれる友達がたくさんいます。

私は四年生の十一月ごろに足を骨折しました。松葉杖で学校まで歩いていくと、いつもの倍以上の時間がかかるので、学校に行くのがとてもいやでした。でも、毎日お父さんが学

校と家の送りむかえをしてくれました。学校では、毎朝階段をのぼっていると、後ろから友達が「かばん持つわ」と、声をかけてくれて、かばんを教室まで持っていくてくれました。他の友達は、階段の上り下りの手助けをしてくれました。移動教室の時に荷物を持ってくれたり、トイレに行く時に手伝ってくれる友達もいました。担任の先生はいつも「大丈夫？」と、聞いてくださいました。他の先生方もろうで会ったときに、大丈夫か気づかってくださいました。

家では毎日、「今日は、友達がこんなことをしてくれたよ。」「先生がこんなふうに気づかってくださったよ。」というような話を、お母さんとお父さんと話しました。お母さんもお父さんも「よかったね」と喜んでくれました。私もとてもうれしくて、あたたかい気持ちになりました。骨折している間は大変だったけれど、たくさんの方が助けてくれたので学校に行くことができました。もしあの時、誰も何も手伝ってくれた友達がいなかったら、私は学校に行けなかったかもしれない。私は、周りの人にとてもめぐまれてるんだなというところに、気がつくことができました。このめぐまれた環境を大切に、感謝しようと思います。

犯罪を犯してしまう人は、まわりに私がしてもらったようなやさしくしてくれる人、気づかってくれる人、

助けてくれる人がいなくて、つらくてさみしい気持ちになってしまったのかなと思います。一人でもそういうつらくてさみしい気持ちになる人が少なくなれば、悪いことをする人も少なくなるのかなと思いました。社会を明るくすることは、人と仲良く接したり、助け合ったりして、やさしい気持ちになる人が増えていけば、叶えられるのかなと思います。

中学校の部 ●枚方・交野地区保護司会 会長賞

小さなおもいやり

交野市立第四中学校3年 山下 湊大

「社会を明るくする運動」って言葉を聞くと、私は真つ先に「やさしさ」とか「思いやり」っていう言葉を思い浮かべます。社会を変えるなんて、とても大きなことに感じるけど、実はそんなに難しいことじゃなくて、身近なちよつとしたことの積み重ねなんじゃないかと思うんです。

私は、あいさつはするタイプです。道で誰かに会ったら「おはようございます」や「こんにちは」って言うのは、そんなに苦じゃないです。でも、そこから先がなかなか難しくて。話しかけたり、長く話したりするのはどうも苦手で、いつもあいさつだけで終わってしまいます。だから、近所の人ともどこか距離を感じていたんです。

私はまだ子どもなので、できることは少ないですが、困っている人がいたら手を差し伸べることで、明るい気持ち、やさしい気持ちになってくれる人が、一人でも多くなる手助けができればうれしいです。毎日少しずつでもいいので、心がけて続けていくことが大切だと思うので、がんばっていいこうと思います。

そんな私に変化があったのはある日の朝のことでした。家の前を歩いていたら、近所に住むおばあちゃんとすれ違いました。普段から庭で花の水やりをしたり、ゆっくり散歩したりしている方で、顔は知っていたけれど、ほとんど話したことはありませんでした。その日は、ふと思つて「おはようございます」と声をかけました。すると、おばあちゃんは驚いたように立ち止まり、にっこり笑いながら「おはようさん。今日も元気に行っておいで」と返してくれました。その言葉は、私の心にすつと入ってきて、なんだか安心した気持ちになりました。それから、会うたびに会話も増えていきました。「今日は雨が降りそう

だね」とか、「花がきれいだね」とか、ほんの一言の会話です。でも、その短い言葉が私にとっては心の灯のようなものでした。

思いやりって、すごく小さな行動です。けれど、その小さな一歩が誰かの一日を明るく変えることもありまます。そして、そうした思いやりが積み重ねることで、地域の雰囲気も少しずつ変わっていくのだと思います。

たとえば、友情の表情に気づいて声をかけること。家族に「ありがとう」と伝えること。落ち込んでいる人のそばに黙っていてあげること。

どれも難しいことではなく、簡単なことのように見えるけど、やるからやらないかで大きな差が生まれるんです。

「社会を明るくする運動」は、ただ犯罪を減らすだけの活動ではなく、

みんなが安心して暮らせる場所をつくるのが大切なんだと思います。人は誰かに必要とされていると感じられたら、自然と優しくなれます。逆に無関心や孤独は心を閉ざしてしまいう原因になることもあります。

だから、私はこれからも自分のできる小さなことを大切にしたいです。あいさつをきちんとすること、相手のことを気にかけること、困っている人をそつと助けること。そんな思いやりの積み重ねが、きつと社会全体を明るくしていく力になると信じています。正直なところ、一人の力で劇的に変えるのは難しいかもしれませんが社会はもつとやさしくなるはずなんです。私はそう信じています。そして、これからもその一員として、小さな思いやりを大切にしていきたいです。

中学校の部 ●枚方・交野地区保護司会 優秀賞

小さな思いやりで社会を明るく

枚方市立第四中学校1年 東山 結衣

今、私たちが暮らす社会は、とても便利で物質的にも豊かです。しかし、一方でいじめや犯罪などの暗いニュースを見聞きすることも多く、沢山の人の心が疲れていて、なんだかとげとげしい空気を感じることもあります。そんな中、「社会を明るくする運動」は、とても大切な役割を果

たしていると思います。私は、この運動について、みんなが安心して暮らせる社会を作るために、一人一人の思いやりや助け合う心を育てる運動だと思っています。

ある休日の朝、私がクラブ活動のため、学校に向かう途中、大きな荷物を持ってふらふら歩いているおばあ

さんを見かけました。ちょうど祖母くらいの年齢でしょうか。そのおばあさんは学校の向かいにあるコンビニに停めてある車に、荷物を積み込もうとしていました。しかし、かなりの大きさにおばあさん一人では、なかなか積み込めない様子でした。私は一瞬ためらいましたが、すぐにかけ寄り、「お手伝いしますよ。」と声をかけました。おばあさんは「ああごめんね。重くてね。」と疲れているような声で言いました。私が荷物を積み込むと「本当にありがとう。助かりました。」と嬉しそうに何度も言ってくれて、私は少し気恥ずかしいような気持ちになりました。

私は、社会を明るくするために、特別なことはしなくても良いと思います。『ちりも積もれば山となる』小さな行動でも、それが積み重なれば大きな力となるからです。これが大事なのではないのでしょうか。

例えば挨拶。自分からみんなに「おはよう。」と声をかけるのもそうですし、落ちているごみをしらんぷりせずに、拾っただけでも社会を明るくするための一歩です。今の自分のできることを、ほんの少し誰かのために使うことができたなら、それだけで立派な行動だと思うのです。

私の母は、「人が死んだら、貯めたものは無くなるけど、与えたものは残るんだよ。」といつも言っています。難しく、小さい頃は、全然意味がわ

からなかったけど、ほんの少し、わかるようになってきた気がします。

私が小学生の頃、運動会の最後のリレーの練習中、私のいるチームは、一位をキープしてしまいました。しかしバトンを落としてしまった子が居ました。結果一位から三位になってしまいました。落としてしまった子は浮かない顔でポツンと立っていました。そこにチームのみんながその子の周りに集まり「大丈夫。」「気にすんな。」「失敗は誰にでもあるから。」「本番がんばろう。」と口々に励ますと、泣き笑いの顔になり、「ありがとう。次気をつけるよ。」と「次」を見ることができるようになりました。

失敗は誰にでもあります。もちろん失敗しないことが一番だけど、大切なのは、リカバリーではないでしょうか。同じ失敗を繰り返さないために、失敗を許さないと怒りをぶつけるより、いかに早く立ち直って「次」をみて行動に移せるかが、大切だと思うのです。みんながみんなに気持ちを合わせることを意識して、ほんの少しでも、今できることをする。どんな小さなことも、

つながれば大きな輪になって明るい社会を作っていると思います。



アカリイーネちゃん

枚方・交野地区保護司会「佳作」作品の紹介

小学生の部

樟葉西小学校
鳴海 朱里
物語を変える
小さな光

殿山第二小学校
出原 心結
人と人とのつながりが
社会を明るくする

桜丘北小学校
石戸 義人
見えない親切

香里小学校
岡田 うみ
(無題)

開成小学校
出橋 佑真
「笑顔」と「挨拶」が
溢れる毎日

開成小学校
東久保 心美
見守りのある
社会

香陽小学校
長田 悠華
「犯罪や非行のない
明るい社会」について

川越小学校
おさむら ちなみ
じぶんをまもる

蹉跎小学校
熊上 いろは
犯罪はどこから

蹉跎東小学校
岸本 絢愛
犯罪は非行の
無い新しい世界

津田南小学校
土黒 伊織
愛情と信頼が
育てる明るい社会

津田南小学校
竹下 夏芽
明日は、もっと
いい日になる

岩船小学校
西野 まかな
子ども食どうの
取り組みについて

妙見坂小学校
菅 千歳
思いやりが導く
社会

中学生の部

枚方第四中学校
白石 芽愛
笑顔で世界を明るく

東香里中学校
吉村 奏美
誹謗中傷

交野第二中学校
古賀 茜音
小さな思いやりが
つくる明るい社会

交野第四中学校
平尾 怜音
犯罪や非行のない
社会



保護司会の活動報告

金沢地域への管外研修記

今回の管外研修は金沢刑務所、湖南学院への旅。研修部の企画により施設参観と地元保護司会との交流会を行うことで大きな成果を挙げることが出来たように思う。

十分な事前学習資料も作成され、私は金沢刑務所グループ。ハードな旅程であったが、十分な充実感を味わうことができた。金沢刑務所では視察に併せて、2班グループに分かれて質疑を行い当該刑務所の現況の課題なりについてかなりつつこんだ話をしてもらった。ここは処遇指標F(外国文化教育)、B(犯罪傾向が進んでいる者)対応ということで一時公益通報問題の処理でマスコミで記事化されたということもあったが、受刑者の人権の確保なり更生機会との確保について十分に配慮されていることを聞いて、再犯防止という観点から保護司としての立場から質問を行い、所側の真摯な改善

努力に納得と激励もしておいた。

受刑者の人間としての医療対応の大切さも学ぶことが出来た。施設訪問の折には単に「見た、聞いた、記念写真を撮った」だけでは不十分であり、今後は所側との時々課題について対話学習の必要性も痛感した。

その後、和倉温泉へ宿泊し、相互の情報交換を通じての親睦により非日常的なおつき合いを深めることが出来たように思う。

また開宴に先立って地元の「七尾鹿島保護区保護司会」からの平野会長・地元婦人会和太鼓社中による歓迎



演奏も座に一興を添えて頂き感謝感激雨霰！。饗宴終了後の四方山話も延々と続き、午前様でした。

翌日の地元保護司会でも設営して頂き、双方の保護司会の進むべき道について語り合ったことは、大変有意義なことであった。

七尾市保護司会とは、十分な交流と友情が醸し出されたようだ。

会議後は羽咋市にある能登の至宝といわれる妙成寺の五重塔を参観。バスの道々で震災の復旧の状況も学んだことは、大いに力になった。

本来の管外研修とは、仲間の横の繋がりを確認し見聞を広め、知見を新たにする絶好の機会である。今回は29名という少人数であったが従来から言っているように、このチャンスを最大限に活用すべきである。

コロナ期前あたりから参加人数は減少傾向にあるが、日々勉強という姿勢が必要であり、更なる参加を促したいと思う。

なお、研修部を中心とした各位の工夫と準備に敬意を表したい。(田村正治)

管内研修

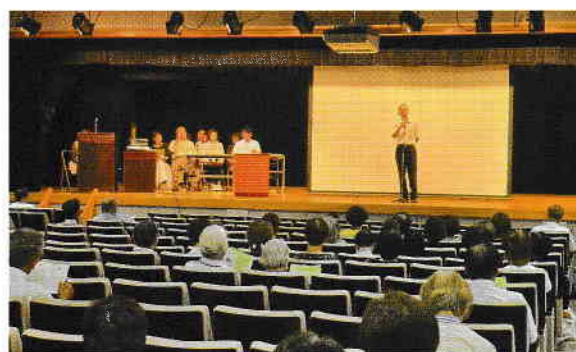
11月27日ラポール枚方に於いて、瀧本優子先生によるSST(ソーシヤル・スキル・トレーニング)研修とコインマップの実習を行い、自分の人との繋がりが良く分かり、今後の面接に活かしていきたいとの感想でした。

合同研修会

組織部では更生保護に関係する他団体(更生保護女性会・BBS会・協力雇用主会)と協力して、年1回合同研修会を開催し、会員相互の見識を高めています。今年は、8月21日、交野市保健福祉総合センター(ゆうゆうセンター)において2部制で行なわれました。

1部は、薬物乱用防止推進委員会の方々による「出前授業」のデモンストレーションでした。DVD視聴・○×クイズ・ロールプレイ等があり、生の授業を彷彿とさせる内容で、その主旨である「薬物乱用はダメ！ゼッタイ！」が観ている側にも伝わってきました。

この活動の為に委員の方々



は事前にリハールを何度も繰り返し、お互いに修正点等を述べ合い「出前授業」に臨むそうです。当日臨席された保護観察官からも「素晴らしい活動です！」との感想を頂きました。

2部は、更生保護施設盟親施設長・松平正守氏による『愛をもって明るい社会を』の演題での講演会でした。施設運営の趣旨、活動内容、今後の課題等、詳細に説明して頂きました。施設を利用する対象者に寄り添って悩みや人生相談、就職斡旋他、丁寧に指導している事等拝聴しました。

(組織部長 廣田恭孝)

保護司の栄誉

◎瑞宝双光章

高橋 節子

◎法務大臣表彰

杉宜ひとみ

◎全国保護司連盟
理事長表彰

岡本 弘子
加藤 吉和
關 憲親
清水 和明
野嶋 大作
前田 富枝
三木さゆり
谷 喜吉

◎近畿地方更生保護委員会
委員長表彰

立浪 友康
松田 浩
安本 好人
奥野 幸一
北川 大祐

◎近畿地方保護司連盟
会長表彰

西田 政充
林 宏毅
山根 孝子
足立 理明
水嶋 忠雄
金剛 照祐
高島 叔孝
寺本 正敏

◎大阪保護観察所長表彰
【永年従事】

【保護司功労】

大路 栄三
市川萬里子
小林 健人
藤本 正行
濱田 充代

◎大阪保護司会連合会
会長表彰

内海 高広
白井 正樹
相馬 利次
垂水 弘

保護司の動静

◎新任保護司

◇令和7年9月25日付

小川 晃司(中宮)

山小路 崇(津田)

◎退任保護司

◇令和7年6月30日付

豊田 文夫(樟葉西)

◇令和7年9月24日付

※浅田 耕一(星田)

※谷 恒雄(交野みらい)

小川 光(牧野)

悼

※今堀 勇

令和7年9月27日

松宮 隆志

令和7年10月16日

謹んでご冥福をお祈りします

(※印 名誉会員)

おめでとうございます



高橋節子

令和7年度秋の叙勲で瑞宝双光章の栄誉に浴し身に余る光栄に感激しております。

この度の受賞は枚方・交野地区の保護司会そして更生保護に携わる地域の皆様のおかげで感謝申し上げます。これからも皆様のご懇情に少しでも応えることが出来そうですよう微力ながら地域社会の為に努力したいと思います。

退任のあいさつ



谷 恒雄

昨年9月25日に、夫婦で退任保護司法務大臣感謝状伝達式に出席し、委嘱期間を終えることが出来ました。思い起こせば、自身の見識

を深める絶好の機会と捉え、飛び込んだ保護司の世界。保護司会には多種多様な人材の宝庫で、多くの先輩と会話し意見交換することにより、人間関係がより豊かなものになっていきました。また、個人との関わり、地域への働きかけ等、貴重な人生経験もさせていただきました。皆様に感謝感謝です。

はじめまして！新任です。



小川 晃司



山小路 崇

私は、愛媛県宇和島市のお寺の三男として生まれ育ちましたが、色々なご縁があり、現在は枚方市津田のお寺の住職をしております。

先輩保護司の方々のお誘いを受け、最初はそこまでの前向きではありませんでしたが、お話を聞いていくうちに、そういえば父も教師師を四国でしていたなあと、思い出し、私自身も何か社会の中で貢献できたらと思ひ引き受けることとなりました。どうぞご指導賜りますようお願いいたします。

(山小路 崇)

サポートセンター便り

令和7年度より、サポートセンター長に中島秀芳、副センター長に加藤勤が就任致しました。保護司活動での経験を活かしたサポートセンターでの活動に取り組みたいと考えていますのでよろしくお願い致します。

枚方・交野地区更生保護サポートセンターは、枚方地区・交野地区に更生保護活動の拠点としてそれぞれ設置され、大阪保護観察から委嘱された企画調整保護司が各10名で運営し輪番制で常駐しており、保護司の処遇活動の支援に加え、更生保護団体との情報交換や住民からの犯罪や非行防止の相談に取り組みんでいます。

保護司の方々には事前予約が必要となりますが、対象者との面接時の利用や保護司会各部会等の打合せも可能ですので休室日を確認の上、ご利用をお願い致します。

(中島秀芳)

編集後記

令和8年は60年ぶりの丙午(ひのえうま)の年。変化に揺れる時代だからこそ、若者の心は不安に沈みがちです。「希望とは、暗闇の中で見る光である」(ヘレン・ケラー)。保護司として、迷いの中にある人々にそっと寄り添い、静かな灯になりたい。小さな支えが、明るい社会を照らす希望になることを信じて。

(広報部一同)